

(プレスリリース)

令和3年3月25日

九州大学大学院芸術工学研究院
株式会社エックス都市研究所九州事務所

「那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会（第2回）」3月10日開催（オンライン）のトークセッション要旨と事後アンケート結果のお知らせ

3月10日にオンライン開催（参加申込者約60名）しました「那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会（第2回）」のトークセッション要旨と事後アンケート回答結果（回答者数約10名）をお知らせ致します。

※「ウォーター・パークマネジメント」とは、水辺空間をネットワーク化し、行政・民間・市民・大学等が連携して、地域の人々皆で水辺・公園を運営していくという考え方です。

記

1. 資料1 トークセッション要旨
2. 資料2 事後アンケート回答結果
3. 資料3 本プログラム
4. お問い合わせ先 那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会事務局

（株式会社エックス都市研究所九州事務所内）

主任研究員 尾藤 文人

住所 〒802-0005 福岡県北九州市小倉北区堺町一丁目2番16号

十八銀行第一生命共同ビル9階

TEL 093-513-2252 FAX 093-513-2253

※プレスの方で取材を申し込まれる方は上記事務局まで、ご連絡下さい。

(以上)

トークセッション要旨（那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会（第2回））

- 那珂川沿いについて。戦前は「清流那珂川」と言われ、福岡博多の観光の目玉だった。急速に水が汚くなったのは昭和30年前後で、家庭排水・工場排水が那珂川に流れ込んだため。すぐ上流には食品・ビール工場や製紙工場など戦前から工場がたくさんできた。排水によって、戦後急激に川が汚くなる。那珂川の支流である博多川には蓋をする（暗渠や埋立）という話が出た。蓋をせず下水道の整備などを経て、博多沿い・清流公園の遊歩道は残った。
- 水辺に降りていける階段は、今も春吉橋より上流に残されている（中洲側の階段は撤去）。春吉橋1～7番町の那珂川沿いには階段が遺る。住吉橋より上流、柳橋市場付近には両岸に階段が残っている。当時は下水道の整備途中で、日常的に川辺に降り洗濯などを行う時代があった。
- 那珂川の中洲南端の清流公園一帯や河畔は、戦災復興の際に防災の観点から公園・空地とすることが決まり、清流公園は公園として整備された。櫛田神社北側の冷泉公園は終戦までお寺や鋳物の工場があった場所だったが、それらを移転させ都市公園として整備した。警固公園もそう。避難所として、防災の観点も含めて、公園・空地として残している。
- 中洲・清流公園の南端にある博多町家寄進高灯籠について。昭和28年の西日本大水害の際には那珂川も大氾濫した。この時だけではなく、那珂川は約10年に一回のペースで水害が起きている。近年も那珂川や支流の薬院新川の水位が増し、もともと「薬院川（泥川）」という川であった国体道路沿いは今泉で浸水した。高灯籠は昭和28年の氾濫の後、復旧護岸工事に合わせて今の場所（清流公園）へ移設された。
- 行政の法律・条令に詳しくないということもあった。一番やりたい事は、フランス・パリの事例で、車道を通行止めにして、砂を置いて、ビーチにすること。何もなかったら水辺に注目することがない。ビーチに滞留することができたら、時間が増えたら水辺への興味が増えるのではないか。大雨、フロートで天然のプールを作る、はできないのかなと思います。色々な縛り（規制）がある。
- コロナ禍において、これまでのイベントはできない。5000人以上はできない。大きなイベントというよりは、日常的にやられるような、すごい集客ではなくても、やっていく、という所が適しているのではないか、と思っている。すみだ川ものコト市についても、これからのやり方を考えなくてはならない、と思っている。オンライン開催といったものに関しては全然ぴんと来ない。リアルの場を使って残したいと思っている

る。今までやってきた中で、公園を物販に使うだけではない、見立ての発想をしていきたい。いろんな人が意見をもち寄りながらやっていきたい。

- 福岡関連の絵葉書・古地図・パンフレットの中から春吉橋界限ということで、那珂川沿いの画像や地図をチョイスして紹介した。今、ちょうど本を書いているので、今年夏には中洲や天神の景観変遷がわかる書籍を発刊予定。私が企画構成を担当している西日本鉄道のアーカイブサイト「にしてつ WEB ミュージアム」では「天神明治通りの景観変遷」等の特集ページやテーマ別の画像ライブラリーで画像を閲覧することもできる。中洲を含む旧冷泉小学校区の戦後史をまとめた冷泉自治協議会の「博多・冷泉のあゆみ」も私が構成編纂したサイト。ネットで検索したら出てくると思うので、御覧頂けたら幸いです。
 - ・にしてつ WEB ミュージアム <http://www.nishitetsu.co.jp/museum/index2.html>
 - ・博多・冷泉のあゆみ <http://www.asocie.jp/reizen/>
 - ・福岡市都市景観賞 WebMagazine FUBA (益田執筆分) <http://f360do.jp/FUBA/archives/category/古写真・観光絵葉書にみる福博景観史>
 - ・アンティーク絵葉書に観る懐かしの風景・町並みアーカイブス (益田運営) <http://www.asocie.jp/archives/>
- コロナ禍において、地元根付いたイベントが大事。高校生にとっても、自然環境に根差した居場所づくりが大変大事。
- 私はいま、地域史をライフワークで研究しているが、もともと地図のゼンリンググループ出身で、まちづくりや観光地図などを担当してきた。20 数年前から複数のまちづくり NPO に関わり (事務局長や理事含む) 様々な地域活動に参加してきて、教育活動やイベントなどで様々な年代に向けたワークショップ・フィールドワークの講師も担当してきた。小学生・中学生・高校生・大学生を対象にするのか、青年を対象にするのかでも手法は異なる。集客人数によってもイベント等やれる内容は変わる。
- 那珂川沿いを含めて、中洲・西中洲は、昼間歩いても結構楽しい。色々な歴史と逸話が眠っているのだが、時代が変わり知っている人がいなくなってしまった。昔は常識だったことも、伝える努力がなければ時代とともに忘れられる。例えば、西大橋そばにあった国際ホテルでは、昭和 29 年 2 月にマリリンモンローが宿泊し窓から手を振った。
- 春吉橋を渡って中洲へ行くのは昔も今もワクワクする。例えば博多座で上演された舞台「めんたいぴりり」にも出演した俳優・相島一之さんのブルースバンドの曲に「中洲へ行こう」という歌があるが、福岡の LIVE で一番盛り上がる曲だ。

- 私は若いころからカヤック（カヌー）もやってきたので、川辺からまちを見るという楽しさを知っている。博多区の御笠川沿いに住んでおり、度重なる水害を経て護岸改修工事が行われた15年くらい前までは、手作りいかだコンテストなども開催された。那珂川沿いに来ると、色々なことをやっているな、というのが良いのではないか。
- 昼間と夜の見方が違っている、というのが中洲の良い所で、暗くて、というのはあまり感じていない。天神中央公園でも明るくなり、若い方たちも増えてきている。
- 若い方々が、昼の中洲に来ないというのは、魅力がないからなのでは、と思う。高校生の方がどういう場所があったらよい、というような意見交換できるような場所があったら良いのではないか。清流公園の広場の中に、まちづくりに関係する、リアルな話が聞けたり、益田さんの資料が見れたり、その場でボードに絵がかけたり、コーヒーを飲むことが出来たり、という場所があることで、次の公園の在り方が模索できるような実験ができるのであれば面白い、と思う。
- 那珂川沿いの昼の活用にどのような可能性を持たれているか。キャナルシティがあるが、完全の夜の場所になってしまった。昔の中洲は子供たちも遊んでいて、ということはおっしゃられているが、昼に活発化する必要があるのか。昼にどこかに遊びに行った人が、夜の情報集めに集まる場所、としては良い。昼の顔と夜の顔を持つべきではなく、夜に来た人が、次の昼にどこで遊ぼうか、となったときに、その情報を知ることができる場所であるといい。
- 一人実行委員会をやっているのですが、こういうのができないのかな、という場所づくりが自分の思い。千一夜市は形になりすぎていて、この先を見据えないと、ただの賑わいづくりのお祭りになってしまう、という所がある。これからどんどん、もう一回、こういうことできないか、春吉橋の北側、駐輪場のつままないエリアをこうできないか、という所を考えながら、行政の人とも話したり、実験しながらやっていけたら良いなと思っている。
- 私は中洲を含む冷泉地区の自治協議会の活動記録係を16年担当してきた。福岡市には公園や歩道に花壇を作る「一人ひと花運動」等、地域住民が気軽にまちづくりに参加できる活動がある。清流公園では、川べりで読書したり、今はリモートで仕事もできる。その場所を活用する楽しさを見つけた人にとっては、とても居心地の良い場所にもなる。千一夜市・縁日のようなものが自然発生的にいつでもあるような場所があって、年代かわりなくいろんな人が集える。それが清流公園か、春吉橋か、というのはみんなで考えたらよいのではないか。

- 中洲へ家族で昼間にお出かけする、という文化は福岡玉屋が閉店し映画館の閉館が相次いだ 1999 年頃までは確かにあった。中洲は映画の町で、福岡市は戦前からずっと人口 10 万人あたりの映画館の数が日本一だった。中洲の大洋映画劇場さんだけが、映画館の火をともし続けてくれている。そういうものも一つの時代を表すコンテンツ。
- 河床に建物基礎のコンクリートが残っているので、SUP を行う上でどうにかしたい。
- 中洲大洋の映画館から、キラの看板に、映写機で動画を当てて、動画の広告を載せたらよいのではないか。
- 水上のアクティビティという所で、こういうこともやっていきたい。水辺から見るパブリックビューイングなど。SUP に特化するつもりはないが、カヌーも含め、水上から盛り上げていきたい。
- 千年夜市・ウォーター・パークマネジメントすべてにおいて、水辺の活性化は、イベントではなくて、日常に近い形の取り組みが必要かと思っている。ベースがあって、そこにイベントがのっかって、千年夜市を年中やりたいというのも、そこにやりたい人が集まって、発信できる。SUP をやりたい人が、夜は夜市をしたり、映画のまちでもあったり、そこをずっと取り組みとして日常化していくことが秘訣だと思っている。
- 那珂川河畔の景観変化をずっとモニタリングしてきた。河畔で日常を楽しむも勿論だけれども、夢を語れる場所であってほしい。那珂川に、水上飛行機を着水できないか、というアイデアがある。今年 9 月はリンドバーグ夫妻が日本、福岡へ来てから 90 年というタイミング。水上飛行機が博多湾とか那珂川に着水できれば良いなと空想を膨らませる。そんな夢があっても良い。夢を語れる場所が、春吉橋や清流公園にあると良い。コミュニティ・ゾーンだったりすればよい。
- 若い人が参加できる場。イベントでなく、日常的に那珂川沿いで何かできる場所があればよい。
- すみだ川ものコト市の実行委員に関しては、女性メンバーが多くて、女性ならではの内容になっていることが多い。イベントは、女性も主体で参加しやすいものになっていると、子供も参加しやすくなる、コンテンツも日常的に使いやすいものになると思う。

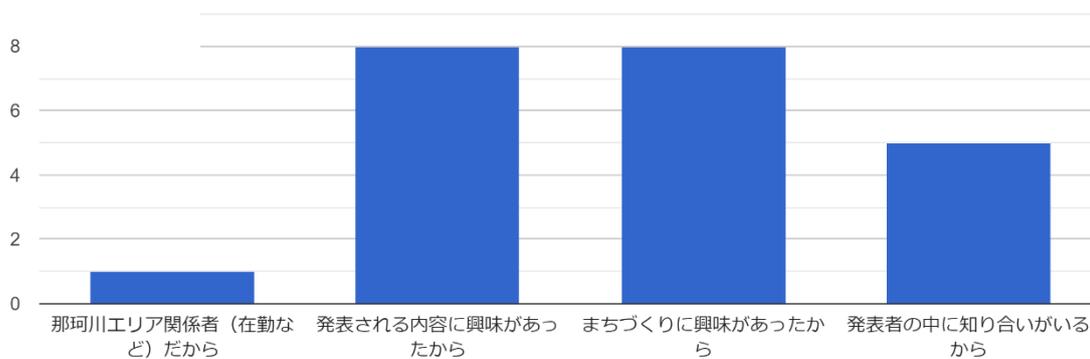
(以上)

事後アンケート結果（那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会（第2回））

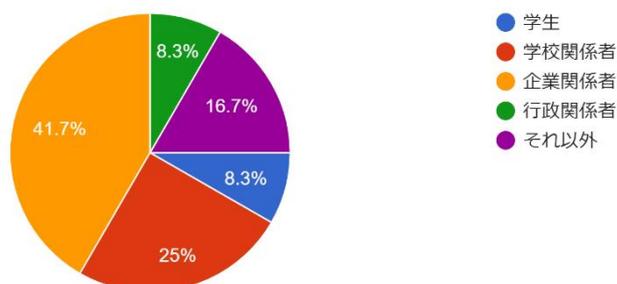
- ・調査方法：インターネット調査（参加登録者（約60名）へアンケートを依頼し、約10名の回答（匿名）を得た。）
- ・調査期間：令和3年3月10日（水）～3月19日（金）

【質問内容と回答結果】

◎質問：那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会（第2回）に参加された動機をお聞かせ下さい。（複数回答可）※必須回答



◎質問：あなたの属性にチェックを記入してください。※必須回答



◎質問：那珂川エリアに望ましい姿がございましたらご自由にご記入下さい。

- 今回の皆様のお話にもありましたが、スポット的なイベントスペースだけではなく、来訪者同士はもちろん、来訪者と地元の方、地元の方同士が交流し、旅や街づくりのモチベーションになるような人間関係が生まれる場所、またはその仕組みを提供できる場。
- 地元の方が参加し、その時々に応じて魅力をアップデートしていけるような仕組みが入るといいなど。例えば定期的なワークショップ開催などです。
- 老若男女が水辺で憩えるような親しみやすいエリアになったらいいと思います。
- 市の中央を流れる川として街と自然が相乗効果を醸し出す川であって欲しい。
- 人と人や、人と自然の繋がりがあっても魅力的な水辺。
- 清流那珂川
- 博多二中卒業生の私は那珂川近くの生まれの 69 歳。幼い頃思い出すと那珂川にはたくさん思い出…ハゼが泳ぐ綺麗な川でした(船からドボンと落ちたことがあったです)。最近是那珂川沿いに住んで、朝日に夕陽に輝く川面の鳥や魚が跳ねて嬉しい日々を過ごしています。子供たちにも昔のような那珂川を楽しんでほしいです。小学校の時に川沿いで絵を描く時間があったので「みんなで那珂川の絵を描くイベント」とか、川沿いにベンチ…ベンチに絵を描いて水辺コミュニケーション！自然とともに生きる楽しさはまちの活性化、川はむこうとこっちをつなぐ夢の懸け橋とおもいます。素晴らしい活動に今後も期待とともに参加したいとおもいますのでよろしくごお願い致します。

◎質問：全体を通しての感想やお気づきの点がございましたらご自由にご記入下さい。

- とても魅力的、刺激的でした。貴重な学びの機会をありがとうございました。残念なのは、視聴者の数がとても少ないこと。松岡さんの新しいステージ展望のように、官民学など様々な立場の方がもっと参加し、ここから具体的なアクションにつながるようになっていきます。
- 本研究会のアウトプットはどんなものを想定しているのでしょうか。なんらか 1 枚絵が描けたりしてもいいのかと思いました。
- 貴重な経験、アイデアが交換されていたと思います。今回の論点、アイデアを整理してどこかに掲載されると、他地域の方にもヒントになるように思います。
- 昭和 40 年代に六本松に生まれたので、花電車の様子を懐かしく思い出しました。
- 春吉橋や中洲の由来などとても勉強になりました。
- 陸と水上のイベントを一体的に行うことでミズベの活性化が一層魅力あるものになると感じた。
- 日常的な魅力が発展に繋がるという考えが印象に残り、那珂川の新しい姿にとっても興味を湧きました。大学でランドスケープについて学びたいと考えており、街の見方やア

アイデアを広げる大変貴重な経験になりました。

- 素晴らしい取組みですので#10まで続けて頂きたいです。
- みなさまの素晴らしい活動に感謝。昔の思い出が走馬灯のようによみがえってうれしい時間でした。
- 新しい千年夜市の在り方の再構築を始められた松岡様のお話と、那珂川の活用を考えるにあたって必ずしも SUP に拘る必要はない時仰っていた川内様のお話が大変興味深かったです。
- これまで直接的な絡みはなかったようにお見受けするお二人ですが、那珂川で面白いことをしたいという方向性とこれまでの活動内容に縛られないスタイルは明らかに一致されているように感じましたので、是非ご一緒に企画検討されたイベントなどを拝見したいと感じました。
- 質疑応答の際に、松岡様から川内様の活動への言及もございましたし、次回の研究会は、是非登壇者のクロストークから活動なクロスオーバーが生まれるような場になることを大変期待しております。

(以上)

那珂川ウォーター・パークマネジメント研究会

#2

日時:2021年3月10日(水)13時00分~15時15分

場所:オンライン(YouTube)によるLive配信

※Google フォーム(下記)からのお申込み(無料)をお願いします。

<https://forms.gle/6JxSt3crNqP6jWQf6>

1. 趣旨説明(13時00分~13時05分)

高取千佳氏 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

2. 地域の取り組み①(13時05分~13時20分)

「千年夜市のこれまでとこれからの活用方法を模索する」

松岡まさたか氏 千年夜市実行委員長

3. 歴史から見た那珂川(13時20分~13時35分)

「双子都市・福岡と博多を結ぶ、中洲・那珂川の歴史景観と役割」

益田啓一郎氏 近代史研究家・アーキビスト

4. 地域の取り組み②(13時35分~13時50分)

「水辺を憩いの空間へ。」

川内亮氏 TAIYO asobi switch

5. 各地の事例紹介(13時50分~14時05分)

「すみだ川ものコト市 ~市民発の手づくり市ができるまで~」

三田大介氏 ものコト市実行委員会

—休憩5分(14時05分~14時10分)—

6. トーク・セッション(14時10分~15時10分)

「これからの那珂川エリアのあり方について」

パネリスト

松岡まさたか氏 千年夜市実行委員長

益田啓一郎氏 近代史研究家・アーキビスト

川内亮氏 TAIYO asobi switch

三田大介氏 ものコト市実行委員会

コーディネーター

尾藤文人氏 株式会社エックス都市研究所 主任研究員

高取千佳氏 九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授

※視聴いただく方からオンタイムでの質問受付

※「ウォーターパークマネジメント」とは、水辺空間をネットワーク化し、

行政・大学・民間・市民などが連携し、地域の人々皆で公園を運営していくという考え方です。